宮崎県立日南振徳商業高等学校　　平成２２年１０月２２日(金)

校長室だより　２７号

中　島　　悟

【キャッチフレーズ】

未来に残そう　伝え築いた　振徳商業
目指せ　三種目　日本一　！

【来週の行事】１０月２８日（木）　防災訓練
２８日（木）　第１０回　閉校行事実行委員会

1「振　徳　今　昔」　　第１１代校長　上田勝行　　30周年記念誌より抜粋
2　出逢ったいい話『大佛師・松本明慶さんの仕事術』『致知』2010年5月号より抜粋

「振　徳　今　昔」(原文)

第１１代校長　上　田　勝　行

私の教職のスタート時は丁度高校急増期にあり、初任校が創立１年目の小林商業、２校目が創立２年目の本校で、恰も新設校めぐりというような巡り合わせでした。

昭和４６年４月赴任してきた本校は、県内で初めて情報処理科、営業科、商業科の３学科からなる小学科制が導入された１年目でした。本校に赴任するまで、コンピュータに関する体系的な知識は全くと言っていいほど持っていませんでした。しかし、これからは商業科の職員は誰もが情報処理の授業を担当しなければならないということから、早速校内での指導者養成のための特訓が始まりました。

先ずは、冨家先生の「電子計算機一般」の授業を受けることでした。この時間がくると情報処理科１年生の教室の後ろに隣の教室から机を持ち込み、生徒と共に授業を受けました。中間テストも期末テストも生徒と共に受け、生徒の答案と共に採点され返してもらうという容赦ない勉強会でした。学習するプログラム言語はＦＯＲＴＲＡＮでしたが、この時期にはまだコンピュータが設置されていないため実習で確認することができず、机上だけでの勉強でした。

次は、各自がコンピュータ通信添削講座を受けることになりました。受講申し込みの手続きが済むとテキストと問題が送ってきます。テキストを隈なく読んでおかないと解答ができないので、手抜きもできません。また、解答送付の校内締切りもあり、焦りもでてきます。このようにしてどうにか全巻を終了し、やっとの思いで修了証書がもらえました。

この年度末には、初めて見る待望の電子計算機ＦＡＣＯＭ２３０－１５が設置されました。空調設備も整った真新しい施設を前に、時代の最先端を走る情報処理科の夢と希望が一段と大きくなったことを生徒、職員共に感じ、胸膨らんだものです。

翌昭和４７年度には幸いにも、７月から９月までの３か月間、福岡市での情報処理教育指導者養成講座の内地留学に派遣させていただきました。県外の受講者の宿泊先と同じ旅館でしたので、情報交換も密になり同期生という繋がりも深まりました。また、期間中効率的に実習ができるようにと、宿泊先の旅館の大広間に３台のせん孔タイプライターが設置され、朝も夜もフル稼働でした。この講座の指導者（リーダー）の一人に前年度受講された本校の鶴崎先生も加わっておられ心強く、大きな収穫となりました。

情報処理科が１年から３年まで揃った昭和４８年度からは「電子計算機一般」、「プログラミングⅡ」の授業を担当することになりました。生徒には、紙テープによる入力で、修正に苦労したことだけが残っているのではないかと思います。

当時が情報化社会の幕開けではなかったでしょうか。私の情報処理教育との出会いは振徳商であり、育ててもらったのも振徳商であると、今でも有難く感謝しているところです。

出逢ったいい話　『大佛師・松本明慶さんの仕事術』

松　本　明　慶（大佛師）

我々は足を切ったり、指を飛ばしたり大怪我をすることもありますが、それでも私はあくる日も仕事場にいます。仕事をしない日はないです。お正月も、弟子には休みをやりますが、自分は木づちをふるっています。この正月の期間は仕事場を独占できて、新年の構想の下ごしらえができるんです。

こういう話をすると、「先生、そんなに仕事ばかりして、ストレスはどう解消していますか」と聞かれますが、スランプやストレスは何から起きているかといえば、結局は仕事から起きているんです。だからそのストレスは仕事でしか解消されないんですね。

魚釣りに行ってストレス解消しているという人もいるけど、それは一時的に忘れているだけで、実際は消えることはないんです。野球選手がヒットを打てないからスランプやと言っても、そんなのヒット打てばいっぺんで直ります。

だから仕事でもらったスランプは仕事でしか返すもんがないです。それでもまた次にスランプがやってきますけど、そうやってくり返していくうち、だんだん間隙が少なくなって、すーっと仕事が出来るようになります。

一つの道を究めていくには精進を続けていかなければなりませんが、そのためにはまず考え方を変えないとダメだと思いますね。

考え方が変わると行動が変わります。

行動が変わると結果が変わります。